

令和8年度 町田市立小山田小学校 学校経営方針

町田市立小山田小学校
校長 悴田 隆良

<p>【町田市教育プラン 2024-2028】</p> <p>教育目標</p> <p>○自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来 →実現に向けたキーワード「学び続ける力」</p> <p>基本方針</p> <p>【Ⅰ】 未来を切り拓くために生きる力を育む 【Ⅱ】 一人ひとりの多様な学びを推進する 【Ⅲ】 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する 【Ⅳ】 地域とともに学ぶ力を高める</p>	<p>【学習指導要領】</p> <p>○社会と連携、協働する「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。</p> <p>○育成したい資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の3つの柱に整理する。</p> <p>○教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の確立を図る。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。</p>
<p>【変化する社会の中で、学校が直面している様々な課題】</p> <p>○いじめ対応、不登校対応 ○DXの加速度的な進展に対する対応 ○教員の疲弊、人材確保～働き方改革</p> <p>○生きてはたらく学力の向上 ○子供たちの多様化、特別な支援の需要拡大 ○学校統合を見据えた教育活動</p>	

1 本校の教育目標

(1) 教育目標

- すすんで学ぶ子
- 思いやりのある子
- じょうぶで元気な子

(2) 基本方針

- ア 学校運営協議会で協議や承認を得た教育課程の実現のため、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と活用を重視するとともに、子供のコミュニケーション能力を高め、確かな学力と豊かな人間関係を育む教育活動を推進する。
- イ 互いの人権を尊重し、自ら学び考え行動する子供の育成を推進する。
- ウ 教科等の特性に応じた言語活動や課題解決的な学習を通して、子供の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育む教育活動を推進する。またICTや図書館を活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた質の高い授業を実践する。
- エ 自然豊かな地域の特色を生かし、自ら課題を見付け、適切に判断し、課題を解決する体験学習を計画的に行う。保護者、地域と協力して地域協働の学校づくりを推進し、心豊かな子供の育成を目指す。
- オ 心身ともに健やかな子供の育成を目指して、子供の基礎体力の向上・健康の保持増進を図る教育活動を推進する。

- カ 安全教育の実践を通して、安全の大切さを理解させる。自他の生命尊重を重んじ、安全で安心な生活を送るための資質や能力の育成を目指す。
- キ 自分のよさや可能性を見つけ、自分らしい生き方を実現するために、子供の発達段階に応じたキャリア教育を推進する。
- ク 関係機関と連携し、合理的配慮を含めたユニバーサルデザインを意識しながら、子供の自己肯定感を高める教育を推進し、子供一人一人のニーズに対応した指導を行う。
- ケ 小山田中学校区の三校間で連携を図り、9年間の系統性を確保しながら、地域に根差した教育を目指す。

2 学校経営の視点

(1) 目指す学校像

多様な他者とのかかわりを通して、子供たちが自分のよさを見つけ、自信と意欲をもって学んでいく学校
 ～子供、保護者・地域、教職員が喜びを感じることができる学校～

それぞれの喜びとは…

- ・子供たちが「わかった」「できた」を感じる
- ・保護者や地域の方々が「子供たちのために協力したい」と思う
- ・教職員がもてる力を十分に発揮し、学びの場をつくることにやりがいを感じる

(2) 目指す児童像

- ・学ぶことに楽しさ、面白さを感じる子供
- ・自己肯定感をもち、自他を大切にしている子供
- ・命を大切にし、心も身体も元気な子供

(3) 目指す教職員像

- ・向上心を持ち、子供たちのために職務に励む教職員
- ・ビジョンと情報を共有し、協働して教育活動を展開する教職員
- ・保護者・地域との連携を推進し、信頼される教職員

(4) 今年度の重点取組事項

子供たち一人一人が小山田小学校で学ぶ喜びを実感できるようにするために…

- ◎地域と連携した教育活動の推進 ⇒ 小山田学習のブラッシュアップしていく
- ◎学ぶ意欲を大切にしたい学習指導 ⇒ 子供たちが選択できる場面をつくる
- ◎いじめ見逃し0を目指す生活指導 ⇒ どの子も笑顔で学校生活を送れるようにする
- ◎かかわりあう力を伸ばす特別活動 ⇒ 小規模校の特性を生かした活動を展開する
- ◎働き方改革を意識した学校運営 ⇒ 子供たちにかかわる時間を確保していく

3 中期・短期経営目標（○）と具体的方策（・）

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

保護者&地域との協働体制づくり

- 地域の環境や人材を生かした体験的活動（小山田学習）を通して、小山田地域のよさを知る。
- ・全校児童参加の餅つき大会を実施し、持続可能な小山田学習を構築する。
- ・ボランティアコーディネーターと連携して、地域教育力を積極的に活用する。

- タイムリーで積極的な情報発信と公開を通して、保護者&地域に教育活動への理解を求める。
 - ・日々の学校生活の様子をホームページや学校だより、学年だよりを通して発信する。
 - ・学校運営協議会を定期的に（年6回）開催し、学校運営についての意見交換を行う。
 - ・学校評価を教育活動の成果と課題を把握するための有効な資料として活用する。

(2) 確かな学力の育成

児童が学び続けるための意欲を高め、知識を深める授業づくり

- 子供たちが「分かる」「できる」「楽しい」と感じる授業を展開する。
 - ・「授業をデザインする8つの取組と6つの選択」を踏まえた授業改革をすすめる。
 - ・子供たちが自分の考えをもとに多様な方法で表現したり、選択したりできる場をつくる。
 - ・校内研究は国語科を中心として、言葉の力を高める授業の構築に取り組む。
 - ・算数科は低学年から習熟度別指導を取り入れ、基礎・基本の習得を徹底する。
- 子供たちが学習への興味&関心を高める工夫をする。
 - ・ICTを活用して、個別最適な学びを実現し、知識・技能を定着させる。
 - ・既習事項を振り返る時間を設定し、問題解決型、探究型の学習を展開する。
 - ・生活科や総合的な学習の時間を核とした教科横断型「小山田学習」の充実と発展を図る。
 - ・学校図書館の充実、朝読書、読書週間の実施

(3) 豊かな心の涵養

安全で安心できる落ち着いた学校生活づくり

- 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。
 - ・道徳の授業において、道徳的価値に基づいた「自分を振り返る」時間を設定する。
 - ・生活アンケート、Q-Uテスト、SC面談等によるいじめの未然防止と早期発見、対応を図る。
 - ・「心のアンケート」を確実に実施し、分析を行う。気になる子供に対して即対応する。
 - ・全教職員による情報共有、指導記録の作成&保管、重大事故への強い危機意識等を徹底する。
 - ・情報化社会に対応した情報通信機器の使い方やSNS等のルールやマナーの指導を充実させる。
- 子供たちの自己有用感を高め、人とのかかわりを通して自分を大事に思う心を育てる。
 - ・「あいさつ」を通してコミュニケーション力の育成を図る。
 - ・主体的な活動（日常的な活動）を重視する。（委員会・クラブ・たてわり班・係活動等）
 - ・子供たちが達成感を味わうことのできる学校行事を立案し実施する。
- 特別支援教育の充実を図る。
 - ・サポートルームでの指導や特別支援専門員との連携による個に応じた支援の充実を図る。
 - ・校内委員会での情報共有をもとに関係機関との連携を強化する。
 - ・町田市教育アドバイザーと連携した、校内研修会を実施する。

(4) 健やかな体の育成

運動、食事を大切にした健康と安心安全な環境づくり

- 運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。
 - ・体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や小山田フェスタ等を実施し、運動の日常化に向けた取組を行う。
 - ・栄養士を核とした、食育の推進、給食指導の充実を図る。

- 安全な生活環境を整え、バランスのとれた安全教育の実施と危機管理体制を確立する。
 - ・学校に必要な持ち物、遊びのルール、廊下・階段の歩行など小山田小の約束を守って生活する。
 - ・危機管理マニュアルを見直し、危機管理情報（健康・問題行動・安全等）を共有する。
- 心身の健康の保持増進に関する指導の充実を図る。
 - ・不登校傾向にある子供の対応について、関係機関と連携し多面的なアプローチをする。
 - ・食物アレルギーについて保護者面談を実施し、危機管理の徹底を図る。
 - ・学校医と連携した歯磨き指導を継続する。

(5) 教職員の資質・能力の向上

学びの場を作り出す組織づくり

- 指導力の向上を図る。
 - ・管理職や教員相互の授業観察を通して、授業力を高める。
 - ・第1地区合同研修会や小教研、各種研修会や研究発表会への積極的参加、校内研究&研修等の学ぶ機会を活用して学習指導力を高める。
 - ・24時間以内の問題解決姿勢で複数での対応や保護者への連絡を徹底し、生活指導力を高める。
 - ・学年会やブロック会を充実させ、情報共有を密に行うことで、組織的に児童理解力を高める。
- 法令を遵守し、公務員としての自覚を強くもつ。
 - ・サービスの厳正を図る（体罰、不適切な指導、猥褻、個人情報流出、交通事故等のサービス事故根絶）
 - ・週の指導計画に基づき教育課程を適正に実施する（内容、時数、安全への配慮、必要な修正等）
 - ・安全で清潔感のある施設管理、整理整頓、エコ活動等を推進する。
 - ・中長期的な視点に立ち、費用対効果を念頭に置いた予算編制と確実な執行を行う。
- 働き方改革で業務の効率化を図り、子供たちの指導に充てる時間を確保する。
 - ・精選した職員会議でも運営可能な組織を構築し、校務支援システムのさらなる活用を推進する。
 - ・自己申告時の面接（年3回）で、取り組むべき職務の重点化を図り、進捗状況を確認する。
 - ・時間外労働月当たり45時間以内を推進する。
 - ・仕事上の悩みや困りごとを相談し合える風通しのよい職場環境をつくる。
 - ・教職員の勤務状況を把握し、心身の健康を守り、互いに助け合い、協力し合う関係を築く。